劇場第七

ツアー2021

現実って何？
あなたは何が現実か見えて
いるようだけど、
私、
目が悪くて何も見えないの。
あなたには前しか見えていない。
それは
あなたの目には
まだ人生というものが
見えていないだけじゃない？

桜の園

原作　A.チェーホフ

構成・演出・美術・訳　鳴海康平

出演

木母千尋、小菅紘史 ／ 諏訪七海、増田知就、藤島えり子(room16)、金定和沙(青年団)、森下庸之(TRASHMASTERS)
三島景太(SPAC-静岡県舞台芸術センター)

そう、これが現実。
でも泣かないで。
まだこれからの人生がある。
一緒にここを出て、
私たちで新しく庭をつくろうよ。

社会の変化とともに躍進する者、没落する者、そしてそれら両方を見る未来を担う若者たち。
この三者の目に「桜の園」はどう映るのか。
チェーホフが亡くなる半年前の初演以降、世界中で上演され続ける名作戯曲。
移り変わる社会と世代、変われる人間と変わることができない人間の切なさが入り交じる。

宮崎公演　2021年12月18日(土)・19日(日)　メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)　演劇ホール舞台上舞台

桜の園

原作　A.チェーホフ

構成・演出・美術・訳　鳴海康平

出演

木母千尋、小菅紘史 ／ 諏訪七海、増田知就、藤島えり子(room16)、金定和沙(青年団)、森下庸之(TRASHMASTERS)
三島景太(SPAC-静岡県舞台芸術センター)

桜の園

1904年にモスクワ芸術座で初演されたチェーホフ最後の戯曲。かつての裕福なころの浪費癖が抜けない女地主ラネーフスカヤが、久しぶりに自分の土地に帰ってくる。しかし、その土地の桜の園は借金返済のために売りに出される。商人ロパーヒンがこの状況を切り抜けるための助言をするも、ラネーフスカヤたちは聞こうとはしない。桜の園の売却が決まり、ラネーフスカヤたちは屋敷を後にする中、桜を切り倒す音が響く。

アントン・チェーホフ(1860-1904)

ロシアの作家、医師。小説においても戯曲においても革新的なスタイルで作品を残す。それまでの大きな物語や主人公のような存在に重きをおかず、人間に対するすぐれた描写と緻密な構造を用い、リアリズムにおける近代劇の基礎をつくったモスクワ芸術座の創成期に戯曲を書き下ろした。「かもめ」「ワーニャ伯父さん」「三人姉妹」「桜の園」は四大戯曲と呼ばれ、現在も世界中で上演され続けている。

第七劇場ツアー2021「桜の園」宮崎公演

2021年12月18日(土)14:00開演 ・19日(日)14:00開演

※各回終演後に演出家によるトークセッションを実施予定 ※開場は開演の30分前

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 演劇ホール舞台上舞台

宮崎県宮崎市船塚3丁目210番地 「宮崎駅」からタクシー約10分、「宮崎神宮駅」からタクシー約5分・徒歩約20分

全席自由・日時指定　一般2,500円(当日3,000円)　25歳以下1,000円(前売・当日とも)　18歳以下500円(前売・当日とも)

※就学前のお子様の入場はご遠慮ください。※車椅子・介助席は、窓口・電話での取り扱いとなります。※当日券が出る場合は、開場時間の30分前から、会場入口受付にて販売いたします。
※25歳以下および18歳以下の方は、入場時に年齢の確認ができる身分証の提示をお願いする場合があります。※開場時間の30分前から、会場入口受付にて入場整理券を配布します。

託児サービスのご案内　**申込先／NPO法人みやざき子ども文化センター TEL080-4694-8686** 月～金10:00～18:00(土日祝休み)

公演を鑑賞される際にお子様を預けられる託児サービスがございます。申込みは公演日の一週間前までとなります。
なお、キャンセルされる場合は公演日の3日前までにご連絡ください。【対象】6か月～12歳まで　【料金】お子様おひとりにつき1,000円(税込み)

チケット取扱い

メディキット県民文化センターチケットセンター TEL0985-28-7766

[窓口・電話受付] 午前10時～午後6時30分(月曜休館／月曜日が祝日の場合は翌平日休館) [WEB] 劇場ホームページで24時間予約・購入できます。

お問い合わせ:第七劇場 TEL070-1613-7711(平日10時～18時)、(公財)宮崎県立芸術劇場 企画制作係 TEL0985-28-3208

本事業は、新型コロナウイルス感染拡大の防止策、感染リスクの低減策を実施いたします。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

チケット発売日:2021年10月10日(日) 10:00～

第七劇場

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内25都市、海外5ヶ国11都市(フランス・ドイツ・ポーランド・韓国・台湾)で作品を上演。代表・鳴海がポーラ美術振興財団在外研修員(フランス・2012年)として1年間滞仏後、2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新劇場 Théâtre de Bellevilleのレジデントカンパニーとなる。
https://dainanagekijo.org

舞台監督:北方こだち　照明:島田雄峰、佐伯香奈(LST)　音響:平岡希樹(現場サイド)　衣装:川口知美(COSTUME80+)
振付協力:奥野衆英　写真:松原豊　フライヤーレイアウト:橋本デザイン室

主催:合同会社第七劇場　共催:公益財団法人宮崎県立芸術劇場
助成:芸術文化振興基金助成事業　協力:SPAC-静岡県舞台芸術センター　製作:合同会社第七劇場

「ワーニャ伯父さん」(2021年・宮崎公演)